

## 厚生労働行政モニター制度によるアンケート調査

### ○厚生労働行政モニター制度

広く一般国民からの意見、要望を寄せていただき、今後における厚生労働行政施策の参考とするとともに、厚生労働行政に対する国民の理解の向上を図ることを目的としているもので、年度毎に希望者450名程度を任命している。

### ○2020年度第3回厚生労働行政モニターアンケート

実施日：2020年12月

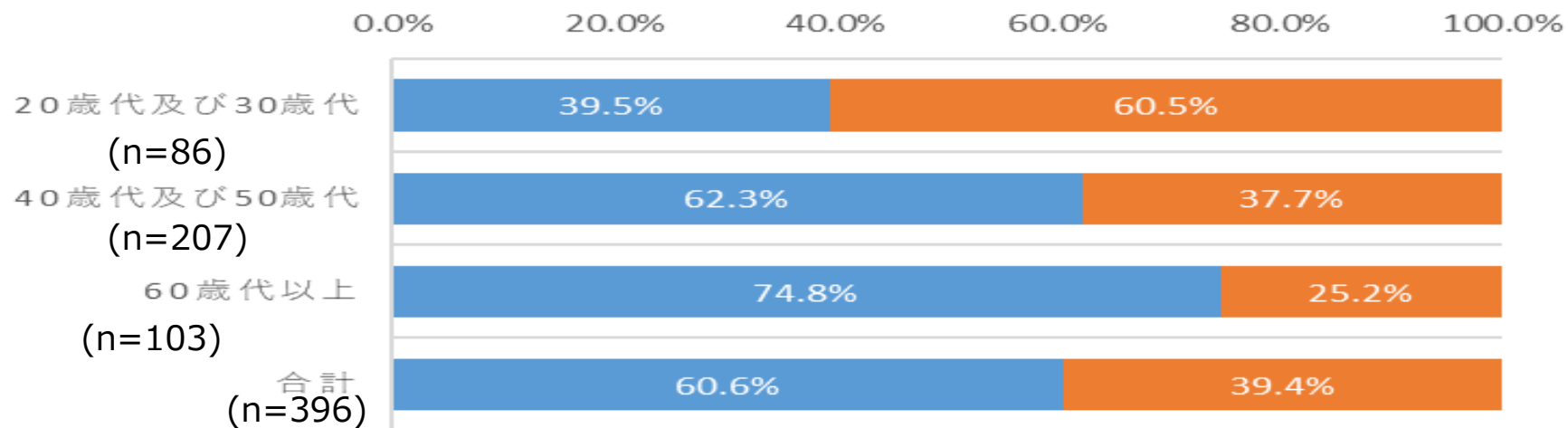
回答者数：396名

問数：17（選択11、記述6）

※選択11の回答結果についてグラフ化し傾向を分析。

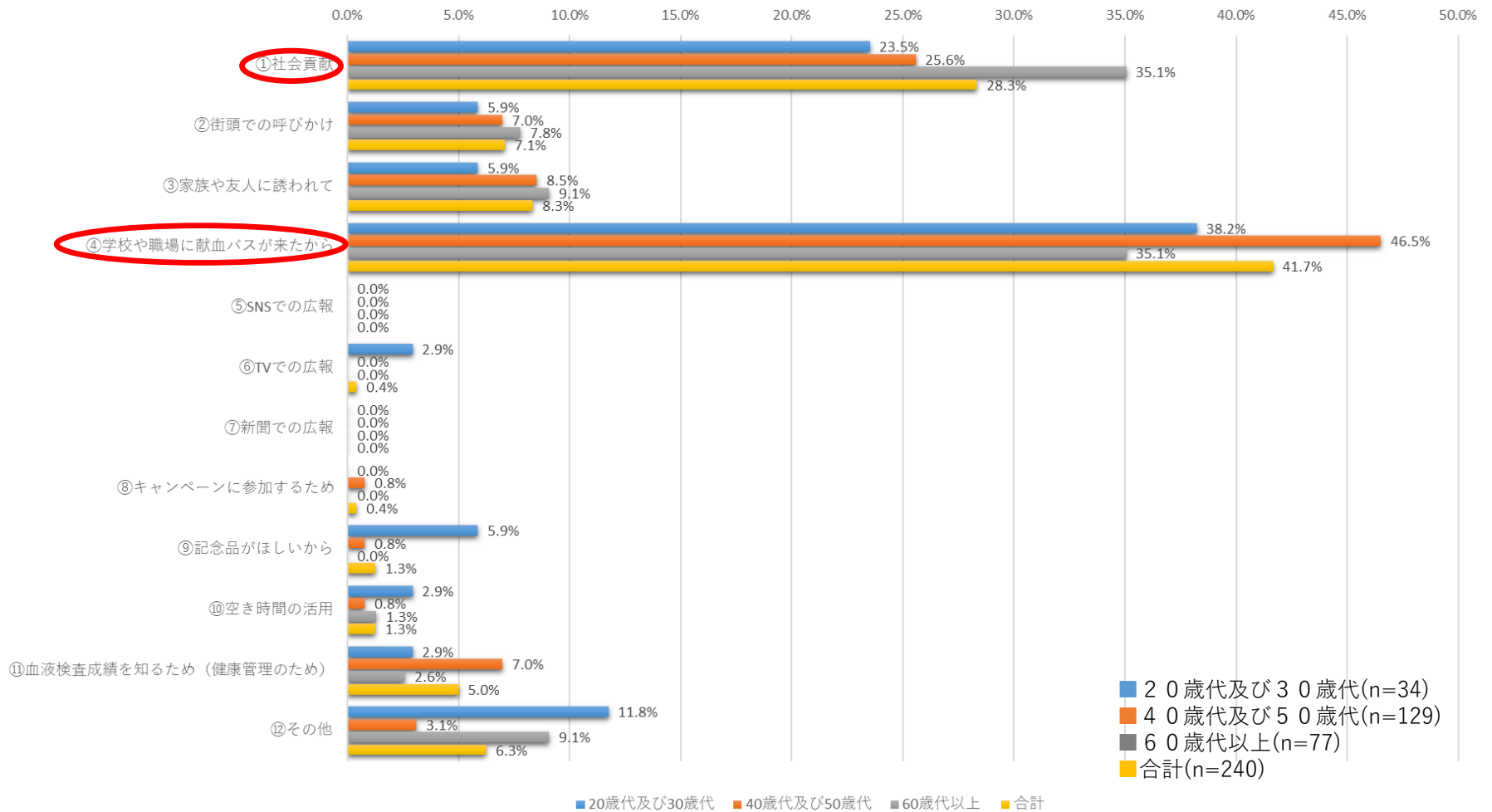
# Q1 献血をしたことがありますか。

■ ①はい ■ ②いいえ



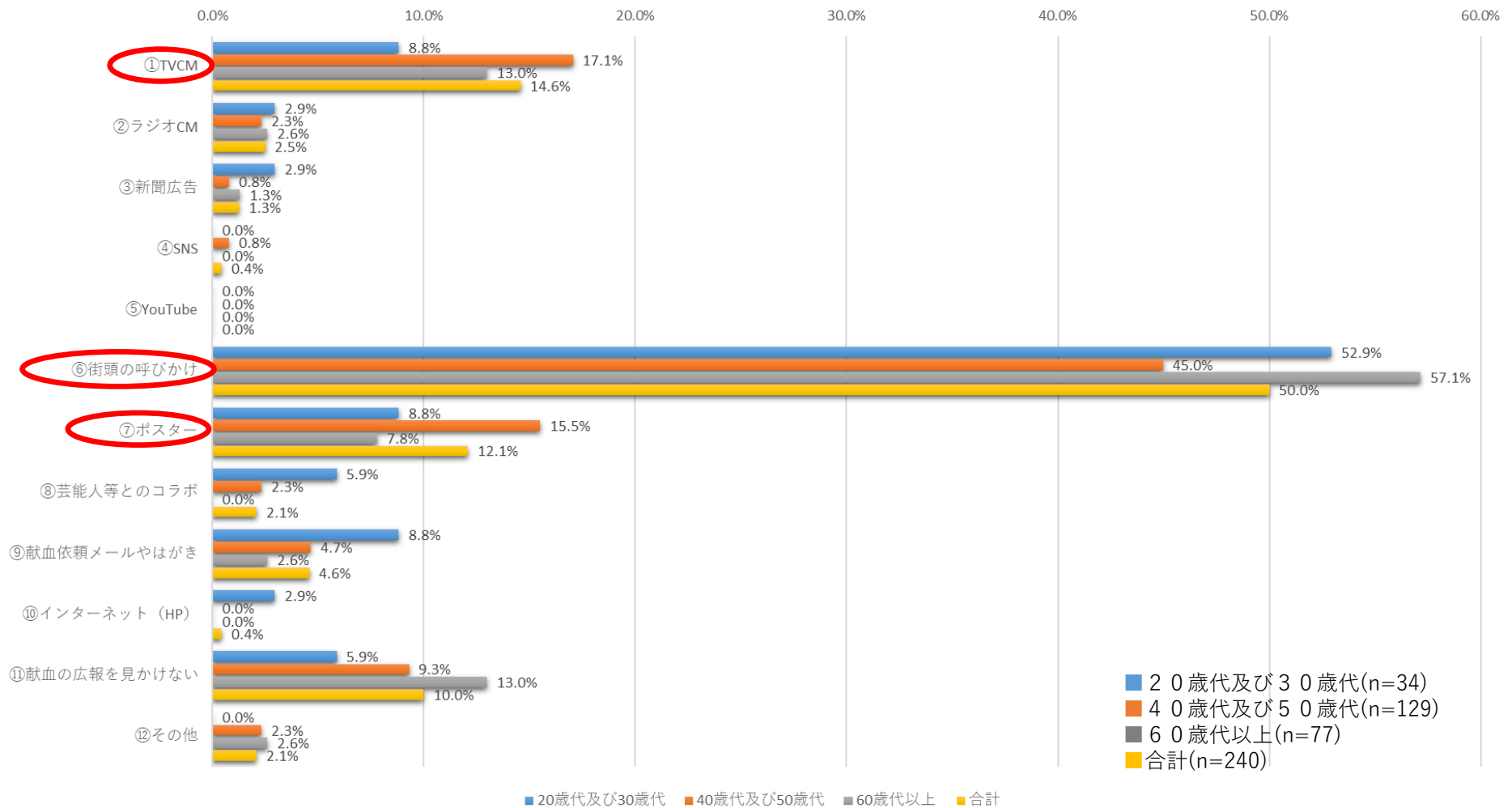
・ 献血をしたことがあると答えた割合は世代が高くなるにつれ増加している。

Q2 「はい」と答えた方に伺います。はじめて献血をしたときのきっかけはなんですか。



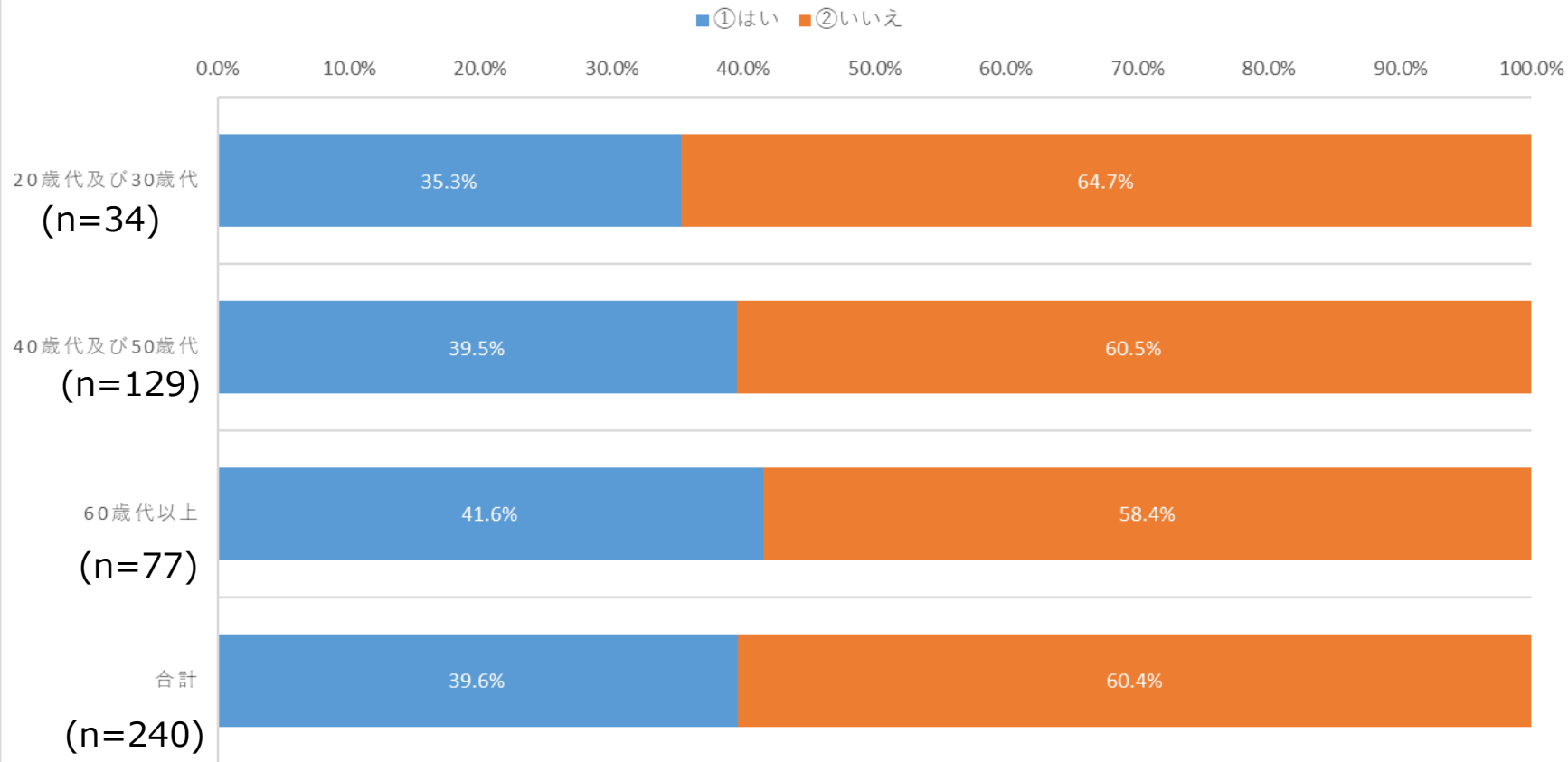
- ・ 世代別共通として、「④学校や職場に献血バスが来たから」、「①社会貢献」の割合が多い。
  - ・ 20歳代及び30歳代では、他の年代に比べて「⑨記念品がほしいから」の割合が多い。
- ※他の年代に比べてアンケート回答者数が少ないことに注意

### Q3 「はい」と答えた方に伺います。献血の広報でよく見るものはなんですか。



- ・ 世代別共通として、「⑥街頭の呼びかけ」が最も多い。合計では次に「①TVCM」「⑦ポスター」と続く。
- ・ 60歳代以上では、「⑪献血の広報を見かけない」の割合が2番目に多い。

Q4 「はい」と答えた方に伺います。献血をするうえで心配に思うことはありますか。



・ 献血をするうえで心配に思うことがあると答えた割合は世代が高くなるにつれ増加しているが、大きな差はない。

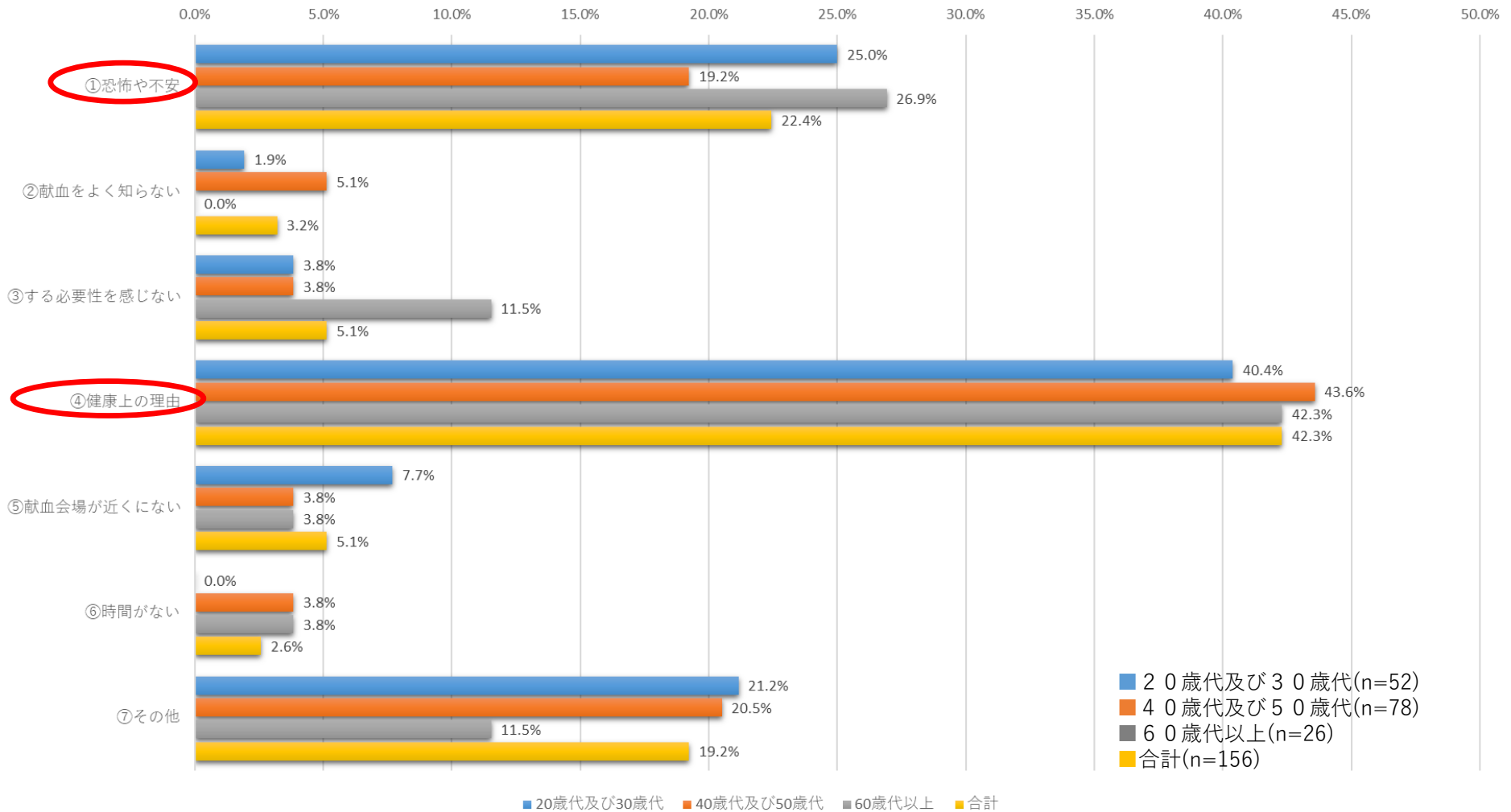
Q5 質問Q4で「はい」と答えた方に伺います。心配に思うことを具体的に教えてください。

n=95

(傾向)

回答者の7割以上が献血後の体調不良、感染不安と回答しており、次に自らの年齢や健康の問題と回答している。採血時の痛みとの回答は少数であった。

Q6 「いいえ」と答えた方に伺います。献血をしたことがない理由を教えてください。



- ・ 世代別共通として、「④健康上の理由」が最も多い。合計では次に「①恐怖や不安」が多い。
- ・ 60歳代以上では、「③する必要を感じない」の割合が3番目に多い。

Q7 質問Q1で「いいえ」と答えた方に伺います。どのようなきっかけがあれば献血をしようと思いますか。

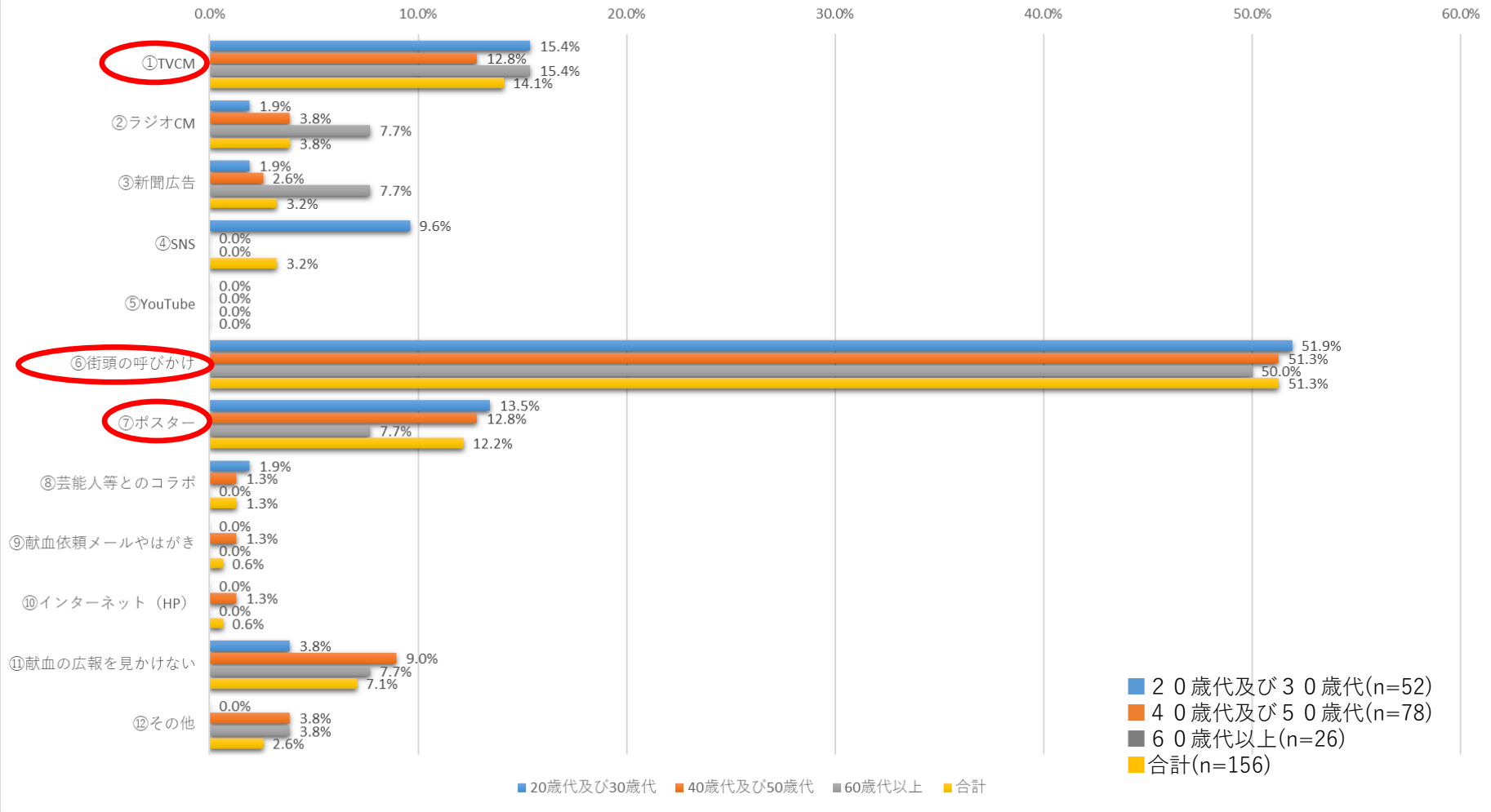
n=156

(傾向)

回答にバラツキがある。最も多い回答は「自身の健康が改善したら」で約3割。他に「時間や場所等の利便性の向上」、「親族や友人など身近な人が必要になった場合」、「献血の必要性が理解できたら」と続く。

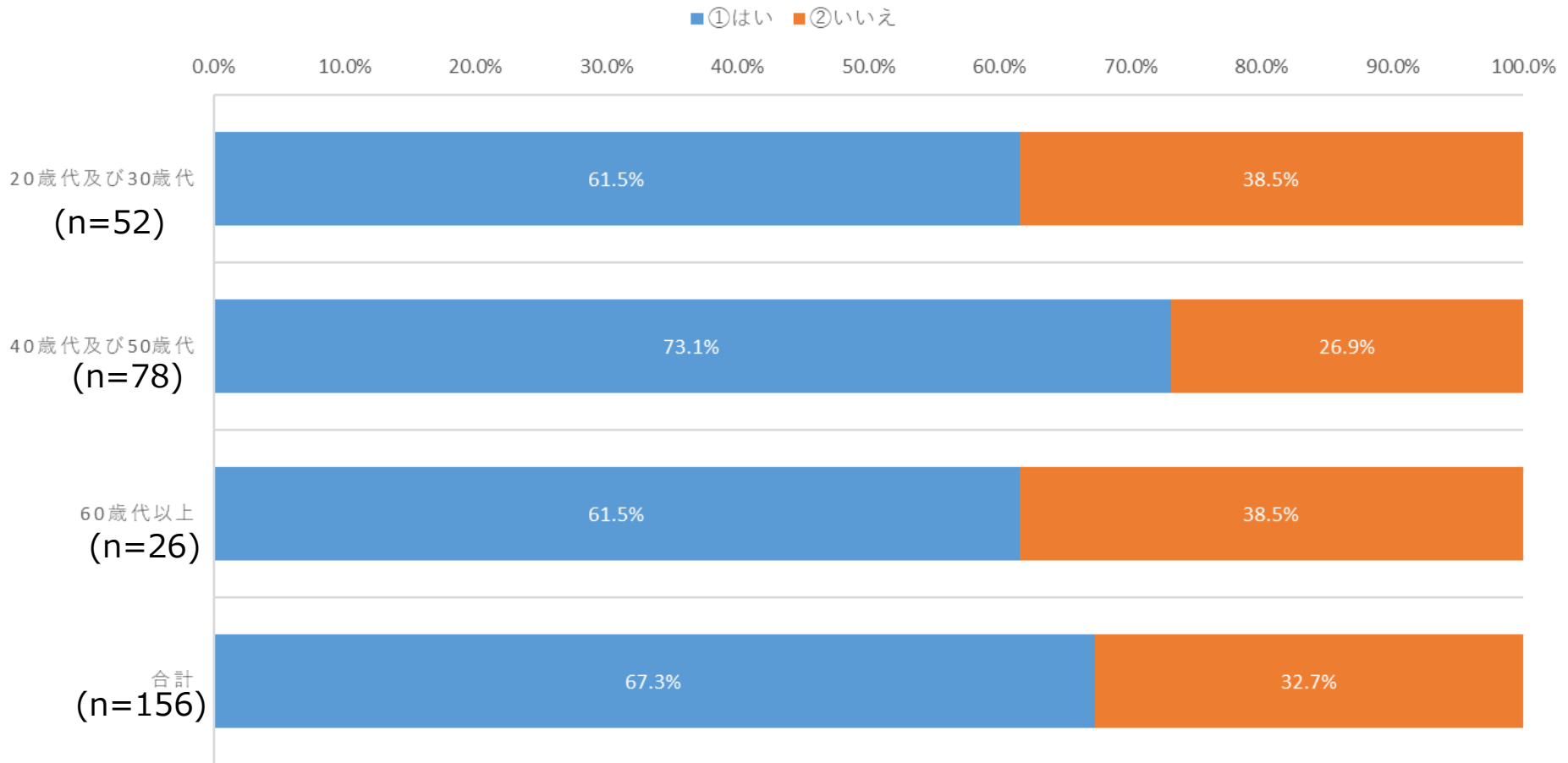


# Q8 「いいえ」と答えた方に伺います。献血の広報でよく見るものはなんですか。



- ・世代別共通として、「⑥街頭の呼びかけ」が最も多い。合計では次に「①TVCM」、「⑦ポスター」と続く。
- ・「④SNS」は20歳代及び30歳代のみよく見ると回答している。

Q9 「いいえ」と答えた方に伺います。献血をするうえで心配に思うことはありますか。



- ・ 40歳代及び50歳代は、他の世代に比べ心配に思うとの回答が割合が多い。

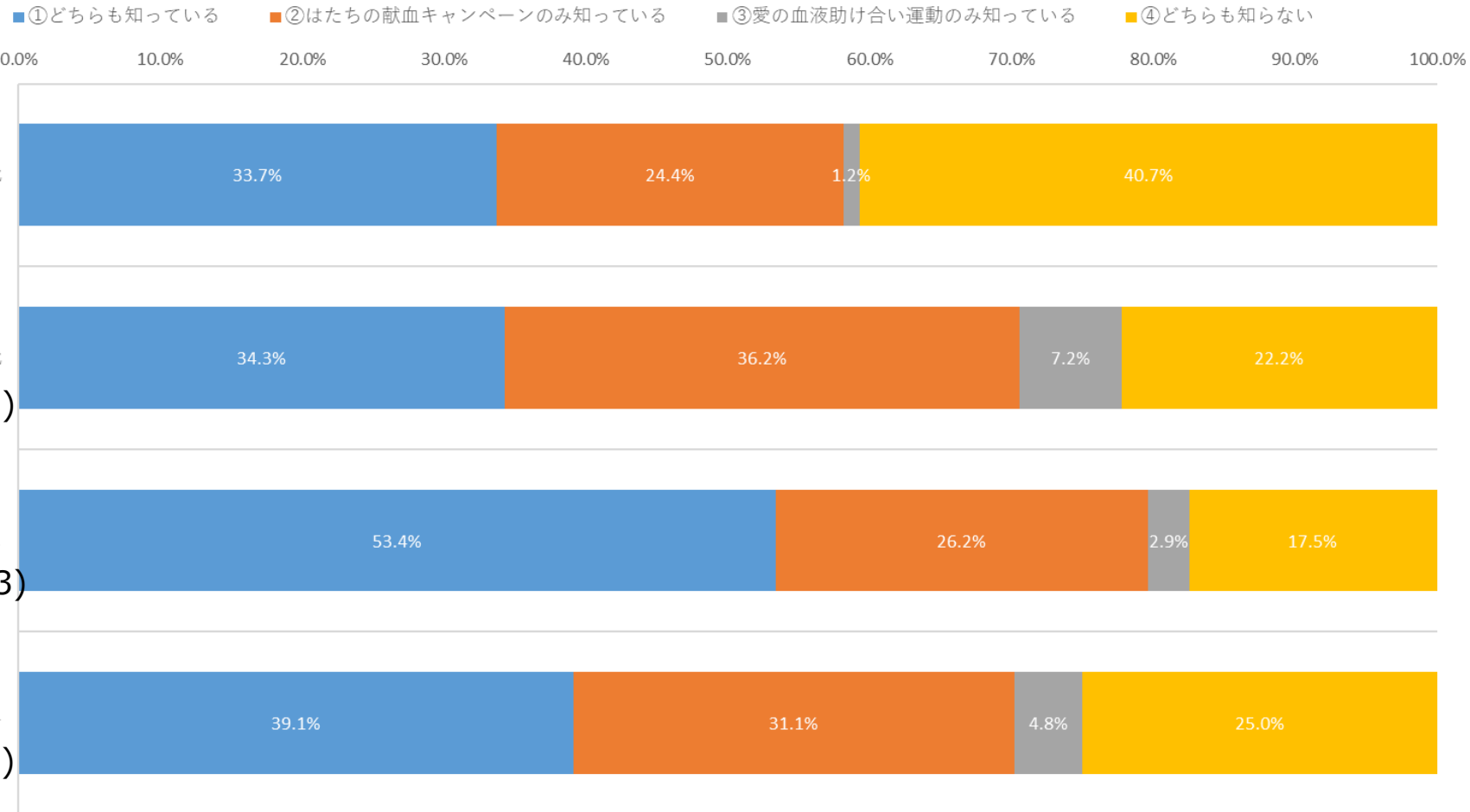
Q10 質問Q9で「はい」と答えた方に伺います。心配に思うことを具体的に教えてください。

n=105

(傾向)

回答者の約7割が献血後の体調不良、感染不安と回答しており、次に自らの年齢や健康の問題と回答している。採血時の痛みとの回答は少数であった。

# Q11 はたちの献血キャンペーンや愛の血液助け合い運動を知っていますか。



- ・ どちらも知っているとの回答は、60歳以上のみ過半数を超えている。
- ・ 全世代共通として、はたちの献血キャンペーンの方が愛の血液助け合い運動に比べて認知度が高い。

Q12 若年層の献血者が減少しています。興味をもってもらうために必要なこと（国が行った方がよいこと）はなんだと思いますか。

n=396

（傾向）

最も多い回答は定量的な情報、必要性のより具体的な情報、安全性の情報等を伝える「広報内容の充実」が2割程度であった。次に学校等の「教育現場の活用」、SNSやテレビなどの「広報媒体の活用」、アイドル、漫画キャラクター等の起用や成人式を利用する等の「イベント、有名人キャラクターの活用」、記念品等の「献血に対するインセンティブの活用」と続く。

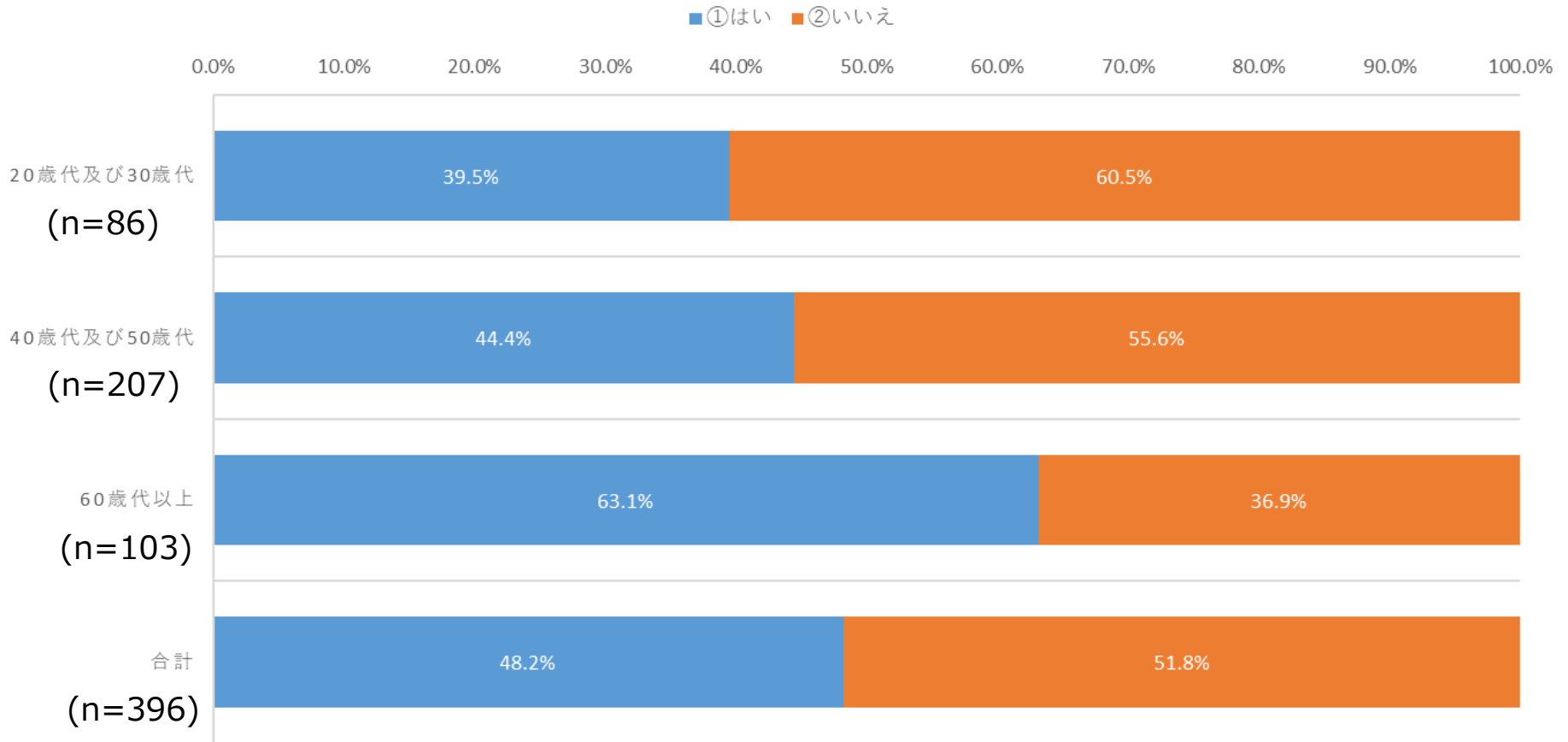
Q13 コロナ禍において、献血協力が得られにくい状況となっておりますが、より多くの方に協力いただくために必要なことはなんだと思いますか。

n=396

(傾向)

具体的な感染症対策、献血の必要性等の「広報啓発の拡充」が約4割と最も多い回答となり、次に献血ルーム・献血バスの「施設設備の拡充」、記念品等の「インセンティブの授与」と続く。

## Q14 献血可能年齢を知っていますか。

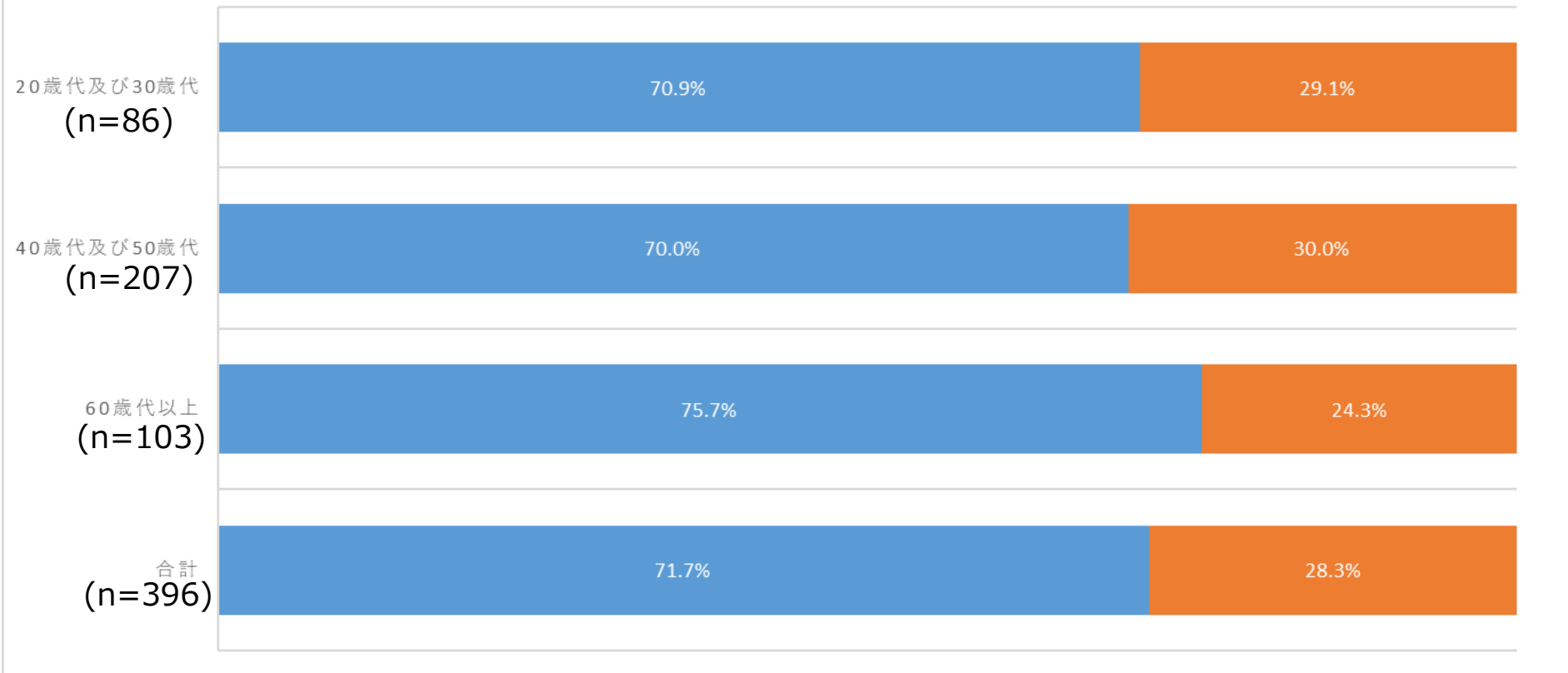


- ・ 世代が高くなるにつれ、知っているという割合が増えている。
- ・ 60歳代以上のみ過半数を超えている。

# Q15 輸血用血液製剤には有効期間があることを知っていますか。

■①はい ■②いいえ

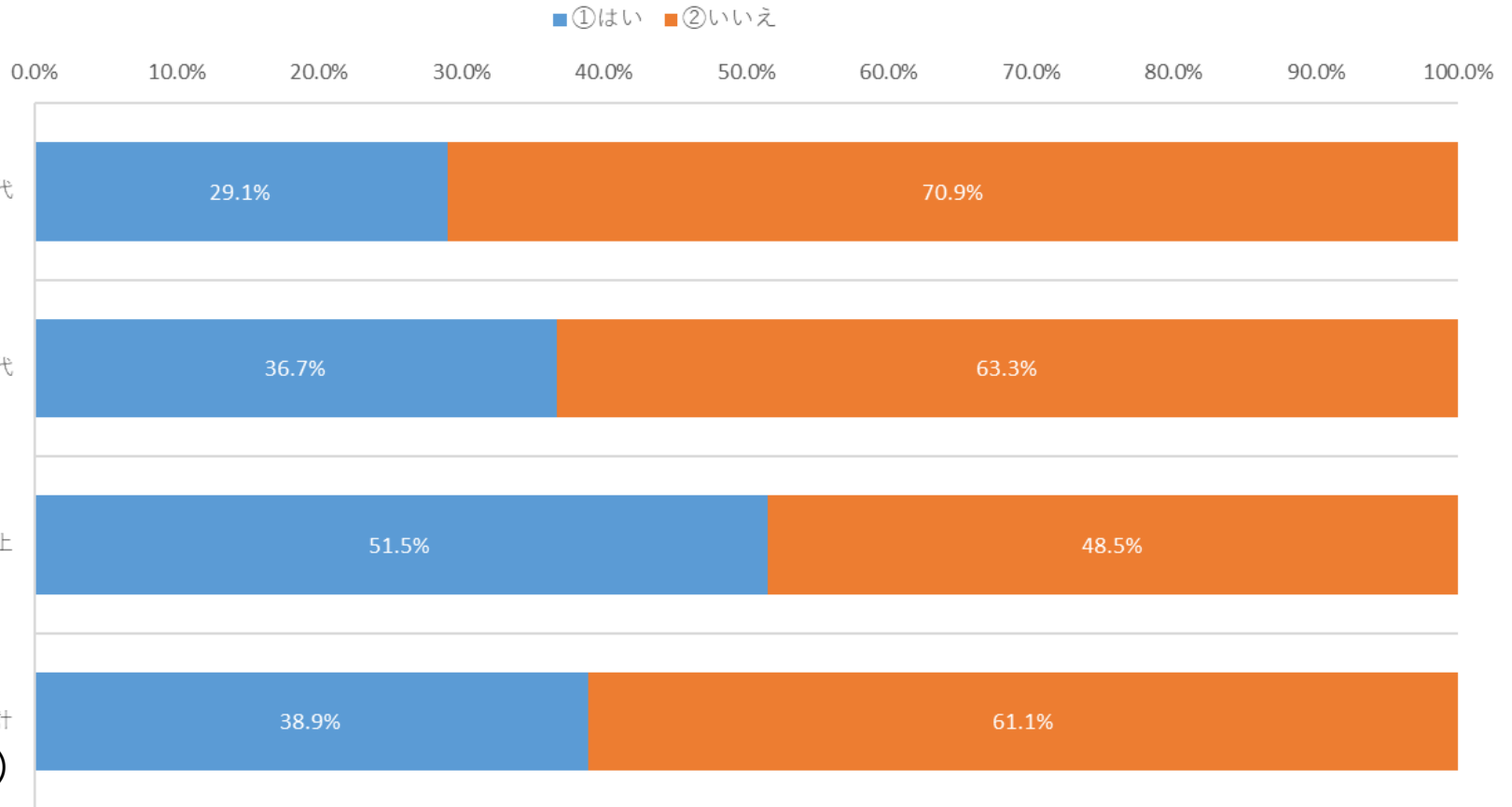
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



・どの世代も7割程度が有効期間があることを知っている。



## Q16 献血血液が輸血以外にも使われることを知っていますか。



- ・ 世代が高くなるにつれ、知っているという割合が増えている。
- ・ 60歳代以上のみ過半数を超えている。

Q17 献血について、国に期待すること、実施してほしいことはありますか。  
n=396

(傾向)

全体的に「国や採血事業者に対して」の回答となっている。回答にバラツキがあるが、SNSやマスメディアを利用した「広報の拡充」、感染対策を含めた安全性や献血の状況を丁寧に発信する「情報内容の充実」、献血ルーム・バスの「利便性の拡大」、大学等への献血バス派遣や学生への教育など「教育現場の活用」、血液事業における「安全性の徹底」、記念品等の「インセンティブの授与」がどれも約1割の回答であった。